

「三重大学海外フィールド研修」授業化への 取り組みとその課題

松岡知津子・奥田 久春

Efforts to make “Mie University Overseas Field Study” a regular class and its challenges

MATSUOKA Chizuko, OKUDA Hisaharu

〈Abstract〉

The Vietnam Field Study (VFS) which has been an overseas program of Mie University and the Ho Chi Minh City of Education, Vietnam, is newly implemented as a course of the Center for General Education in 2022. In this paper, firstly we reviewed previous VFS programs and the background. We also explained how it has been changed through many experiences including COIL during COVID-19. The new VFS course introduced online exchange learning into classes before going to Vietnam. Secondly, we analyzed the syllabus including targeted students, goals and objectives of students' learning, and credits as the course, then, we examined the significance of this program as a course. In previous VFS, we had implemented the programs with contents that were enough to do as university courses. However, it has now become possible to evaluate students' efforts in the courses. In addition, by making it a course, we were able to create an environment where more motivated students can participate in regardless of their economic situation by applying for and obtaining scholarships from the Japan Student Services Organization (JASSO).

キーワード：ベトナム、海外、フィールド研修、国際共修、COIL

1. はじめに

本学では、2022年度より教養教育の科目として「国際理解実践（海外フィールド研修）」が開講されることとなった。本稿では、これまでの数年は国際交流センター実施の海外研修プログラムとして実施されてきた本プログラムを授業化していくことになった経緯とその取り組み、残された課題等について述べていく。

ベトナムでの海外研修プログラムはベトナム・フィールドスタディ（以下、VFS）と呼ばれている。これは、協定大学であるホーチミン市師範大学を1週間程度訪問し、学生交流を進めながら共に授業を受け、協働してフィールド調査を行うプログラムである。これらの経験を通して、グローバルな視点や国際感覚を持ちながら主体的に行動し、また参

加メンバーと協力して活動を進めるなど、異文化にあって積極的にコミュニケーションを図ろうとするグローバル人材に求められる能力・資質を育成することを目的としている。

本稿では、まず過去の VFS の流れを概観し、次に 2022 年度から授業化した経緯について述べる。そして、これまでの事前授業の実施状況を整理して、授業化の意義と今後の課題について検討する。

2. これまでの実施状況と課題

2.1. 研修授業のなりたち

ベトナム・フィールドスタディは 2010 年から開始された。当時は国際交流センターの国際教育科目「ベトナム・フィールドスタディ」として開講されたものである。2013 年度まで吉井美知子教授が担当しており、参加型開発教育のスタディツアーとしての特徴を持っていた。ホーチミン市師範大学だけではなく、国際協力機構 (JICA) や NGO などの現場視察やストリートチルドレン施設での交流、現地の民間企業関係者との会合などが含まれていた。しかし単に学生が引率者に付いて行くだけのスタディツアーではないことが強調され、特に参加型であることに重点が置かれていた (吉井 2011)。当時も三重大学の共通教育の授業として履修登録すれば、単位付与の対象とされた。

2014、2015 年度は、JICA から出向していた長縄真吾特任准教授が担当するようになる。自身のベトナムでの勤務経験を活かし、「JICA のネットワークや協力を得て、新たにベトナム北部の視察を含めた国際協力プロジェクトの視察内容」が追加された。ここでも前任である吉井教授のフィールドスタディの目標を踏襲しており、その特色について長縄も「学生自身の主体的な参加」と述べているように (長縄・江原 2015)、学生に積極的な行動や参加を期待するものであった。

2015 年度は三重大学教養教育機構 (当時) のカリキュラムが本格的に開始された年である。ベトナム・フィールドスタディは教養統合科目の「地域学」(前期の集中科目、夏季休暇中に渡航) として実施された。

2016 年度からは教養教育機構 (当時) の奥田久春特任講師 (筆者) が引き継ぐ形でベトナム・フィールドスタディは継続された。しかしながら、2016 年度以降は教養教育としての開講の予定がなかったことから、授業としては実施されておらず、国際交流センターの海外短期研修プログラムでの位置づけで行われた。そのため奥田と国際交流センターの栗田聡子准教授 (2016 年度)、正路真一助教 (2017 年度) が担当し、2018 年度からは松岡知津子准教授 (筆者) が担当している。

2016 年度からの内容は、これまでの開発教育や国際協力プロジェクトの視察といった要

素から、全日程を使ってホーチミン市師範大学での学生交流を行うことにした。これは特に、問題発見型の PBL、学生のアクティブ・ラーニングによる国際共修を重視したためである。そのため、学生の主体性を重んじ、参加型であることは踏襲している。2016年度は10名の学生が参加し、2017年度は8名が参加した。そして、2018年度は5名が参加した。

2017年度まではホーチミン市師範大学の教員にベトナム語やベトナム文化に関する講義を特別に開講してもらい、国際共修の形としたが、2018年度からは同大学の学生を講師としたベトナム語の学習活動の時間に切り替わり、また日本語の授業に参加させてもらうことで相互に言語を教えあい、学びあうこととなった。その際に、松岡准教授が日本語の授業を担当した。また、ホーチミン市師範大学からの要請で、三重大学の参加学生による日本文化紹介を行うこととした。

この日本文化紹介を取り入れたことで、フィールド調査以外に、日本文化について事前に調べ、発表の準備をしておくことが求められた。これにより、参加学生が日本社会や文化について客観的に見つめなおす機会にすることができるようになった。

2.2. オンラインによる実施（2020年度、2021年度）

2019年度は、これまでどおりベトナムを訪問することとして4名が参加し、事前研修も行っていたが、2020年1月からの新型コロナウイルス感染症拡大のため、ベトナム渡航を諦めざるを得ず、プログラムそのものが中止となった。

2020年度は渡航によるフィールドスタディを計画し4名が実際に参加したが、12月の時点で収束する気配がないことからオンラインでも実施可能な国際交流プログラムに切り替えた。そのことで最初は、参加学生には消極的な姿勢も見られたが、手探りでも準備を進める中で、積極的な姿勢が見られるようになった。ここではベトナムでのフィールド調査の代わりに、各グループのテーマを日本とベトナムの双方がそれぞれの状況を調べ、比較する形にした。また ZOOM でのブレイクアウトセッションの機能を用いて、グループで日本語とベトナム語の教え合いを行った。

オンラインでの国際交流は COIL (Collaborative Online International Learning) を目指したものである。COIL とは国内にいながら、オンラインを用いて海外の学生と国際共修を行うものである。海外渡航のための経費が掛からず、治安などでの不安がない。参加する日程や時間帯も調整しやすい。更に実際に海外に留学するための準備としても活用できるものである。

2021年度は当初からオンラインで実施することを決めた上で、参加学生の募集を行ったこともあり、15名という多くの参加者を得た。参加学生も感想として述べていたのだ

が、オンラインで実施することの利点は、気軽に参加できることである。その一方で、現地の感覚が得られないことや、交流の時間が限られる。このため、現地を訪問してのフィールドスタディの代替となったわけではない。しかし、COIL の要素の利点を生かしつつ、現地訪問の海外研修に組み込むことの可能性を検討することに繋がった。

2.3. 残されていた課題

2021 年度の VFS はオンラインによる開催であったためか、15 名もの参加者を得たが、それまでの VFS では参加者の確保が困難になりつつあり、課題となっていた。その原因と考えられるのが、VFS の実施が明確に決定されるのが当該年度になってからで、後期 (10 月) に入ってから募集を開始していたこと、そのため渡航費などアルバイトで準備する時間が限られていたことが推測される。また、海外派遣プログラムは、海外で一定期間過ごすという性質から、授業期間中に実施することが難しく、どうしても複数の海外プログラムが夏期または春期休暇中に集中することとなる。そのため後期に実施すると、他のプログラムに流れていたという可能性もある。さらに、単位が付与されないため、学部の行事等が行われると、学生にとってはそれを優先せざるを得なかったり、授業以外の活動へのインセンティブとして弱かったりしたことが挙げられる。

このため、早い段階での実施の決定と学生への周知、プログラム内容の公開、募集方法の強化、渡航費などへの支援により学生の負担を減らすことを検討することが求められた。

渡航費についてはアジアとはいえ少額ではない。その支援としては、日本学生支援機構 (JASSO) による奨学金が考えられたが、申請するには授業である必要があった。また、早い段階で人数を確保して計画的に準備を進めていき、学生が応募しやすいように整備するためにも、授業として開講し履修登録に合わせた学生募集を行うことが効果的と考えられた。

これらに加え、先述のように 2010 年から実施してきた事業として、その経験を体系化することが可能であるため、授業化することによりシラバスを開発し、学生の学修目標と学習過程をより明確にすることができる。そしてそのことで学生の取り組みを適切に評価し、単位化して学生に還元することができる。こうした経緯で、授業化が計画され、2022 年度に授業として開講するに至った。

授業化するにあたって求められることは、まず単位を付与するために相当な学修時間を設けることである。それには現地での研修プログラムだけでなく、出発までに事前講義等で 90 分授業×8 回分を充てることとした。授業の内容としては、これまでのプログラムでも行ってきた語学学習、ベトナムについての事前学習、フィールド調査の準備などであるが、授業である以上、学生が参加できるように時間を固定させることが必要であった。

また、今回の授業化では、これまでの経験を体系化するために重視してきた「参加型」「主体的」という方針や学生相互の国際共修、フィールド調査といった取り組みを踏襲しつつ、オンラインで実施した利点を活かすこととした。つまりオンラインと対面との組み合わせである。そこで、事前交流を充実させることとした。

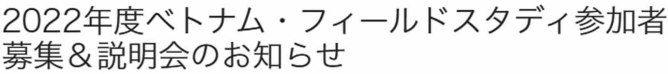
3. VFS 2022 の実施概要

本節では、海外フィールドスタディ 2022 の実施概要について詳細に説明していく。これまででは、派遣先をベトナムに限って実施してきたため、ベトナムフィールドスタディ (VFS) と呼んできたが、2022 年度より本学教養統合科目として授業化するに伴い、ベトナムに限らず、より広い視野を持って学生の国際化を支援すべく、派遣先をベトナムから韓国にも広げることとした。そして、プログラムの名称も「海外フィールド研修」に改めた。

以下では、3. 1. でまず学生募集と説明会について、3. 2. でシラバスについて述べる。そして、3. 3. において事前講義とこれまでの実施状況について述べる。

3. 1. 募集と説明会

VFS の募集および説明会は、以下図 1 に示す通り、本学国際交流センターのホームペー



2022年08月05日

国際交流センターでは、ベトナム・フィールドスタディ2022の参加者について下記の通り募集いたします。

今年度より、教養統合科目「国際理解実践（海外フィールド研修）」として履修登録ができるようになりました！

★オンライン説明会★
【日時】2022年8月23日（火）14:00～15:00
【事前登録】以下より事前登録をお願いします。後ほどZoom情報を送らせていただきます。
<https://forms.gle/CrNSKGuvhaNfaqKs6LQ>
(登録締切：8/21（火）21:00)

【申込方法】履修登録を行うとともに、申込書 **WORD** を国際交流チームへ提出。志望動機 **WORD**（後日提出）
【申込締切】2022年9月9日（金）
【問合せ・申込先】国際交流チーム 竹内 Email:kokusai@ab.mie-u.ac.jp

教養統合科目「国際理解実践（海外フィールド研修）」
ベトナム・フィールドスタディ2022
参加者募集のお知らせ

【実施時期】2023年2月下旬～3月中旬 5日間（予定）※事前協議会として集中講義を行います

参加者募集オンライン説明会を開催します！8月23日（火）14:00～15:00
※オンライン説明会に参加を希望する方は、Google Formから事前登録して下さい。

三重大学の海外協定校、ホーチン市師範大学（ベトナム）の学生と共に、お互いの文化や言葉について学び、興味をもったテーマについてフィールド調査を行います。日本語学科に所属するベトナム人学生たちと共に学び合い、異文化について理解を深める海外研修プログラムです。状況により、オンライン受講に変更となる可能性があります。

図 1 大学 HP における参加者募集と説明会の告知

ジにて行った。例年 10 月以降に行っていた募集および説明会だが、8 月初旬に早めて「2022 年度ベトナム・フィールドスタディ参加募集&説明会のお知らせ」として告知し、オンライン説明会 (zoom) を 8 月 23 日 14 時~15 時に行った。また、履修登録に合わせて、UNIPA (Universal Passport) によって学生にプログラムの周知を行った。オンライン説明会では、教員によるプログラムの説明の他、過去の参加者による発表、質疑応答等を行った。その結果、2022 年度は最終的に 16 名が参加することとなった。

通常の授業履修登録とは異なり、本授業では履修登録期間終了時に合わせて国際交流センター HP から図 2 のような応募書類を提出するよう求めた。つまり、事前の相談なく履修登録修正期間に参加申し込みすることを認めなかった。これは、海外へ渡航するという通常の授業とは異なる授業体系であることを認識してもらうことや、独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) の奨学金を準備した人数が 15 名と限られていたため、それ以上の申し込みがあった場合に選抜する必要があったことが主な原因として挙げられる。

ベトナムフィールドスタディ 2022 参加申込書

2022 年 月 日

三重大学国際交流センター長 殿

私は、ベトナムフィールドスタディ 2022 への参加を希望します。下記の記載事項に間違いはございません。

<個人調査>

所 属	学 部	学 年		学 科	
フリガナ				学籍番号	
氏 名		性 別	男・女	生年月日	西暦 年 月 日 (才)
連絡先	携帯番号： E-mail (大学)： E-mail (個人)：				

注：ここに記入した個人情報、本フィールドスタディのためにのみ利用し、その他の目的には使用しません。

応募確認：

- 事前・事後の集中講義等に参加し、プログラムの理解と参加意識向上に努め、報告書の提出等については大学の指示に従います。
- 日本やベトナムの感染症等の状況によりプログラムが中止となる場合については、大学の指示に従います。

以上の項目について確認しました。

申込者氏名 _____

*注意*本申込書をメールで提出する際は、必ずパスワード (vfs22) を付けて送付して下さい。

図 2 VFS 2022 参加申込書

【ベトナムフィールドスタディ 2022 志望動機】

氏 名	学籍番号
所 属	学部 年生

◆以下の項目について、できるだけ具体的に書いてください。スペースは自由に変更してかまいません。

- どうして、このフィールドスタディに参加しようと考えましたか。
- あなたはフィールドスタディを通してどのような力を身に付けたいと考えていますか。
- ベトナムについて、どんなことを知っていますか。また、ベトナムの学生とのフィールド調査では、どのようなことをテーマにしたいと思っていますか。
- その他、現段階で気になることや質問等があれば、自由に書いてください。

図 3 VFS 2022 志望動機

3. 2. 授業シラバス

「海外フィールド研修」の開講区分等は以下の表1に示すとおりである。これは、本学の教養教育科目であり、対象学生はすべての学部生とした。過去には大学院生の参加者もあったが、授業化するに伴い、大学院生は対象外とせざるをえなくなった。しかし、本授業で主に受講対象とするのは、海外経験が少なく、教員等のサポートを必要とする学生であったことから、問題ないと判断した。

表1 開講区分等

開講区分	教養教育・教養統合科目
受講対象学生	学部（学士課程）：1年次、2年次、3年次、4年次、5年次、6年次
授業科目名	国際理解実践
授業テーマ	海外フィールド研修
単位数	2単位
開講学期	後期集中

次に、「授業の概要」「学修の目的」「学修の到達目標」については以下の通り記載した。オンラインによる事前交流等は、コロナ禍以前からも課題ではあったものの、実施には至っておらず、事前授業は主に教員が中心となって行っていた。しかし、近年のオンラインに

表2 授業の概要、学修の目的および学修の到達目標

授業の概要	三重大学の協定大学（ベトナム・ホーチミン市師範大学または韓国・啓明大学の日本語専門）の学生とグループを作り、グループごとに設定した調査テーマについて、日本語でディスカッション、準備、調査を実施し、成果発表を行う。前半の講義では、座学による現地に関する概要を理解したり、オンラインによる現地学生との交流を行う。後半では、現地を訪問し、実際の調査と交流を行う。なお、2022年度はベトナム・ホーチミン市師範大学との交流を予定している。
学修の目的	異なった環境・背景を持つ協定大学の学生について理解し、協働して調査が進められるようになる。また、協定大学の学生に対して自分たちのことを説明する中で、日本社会や文化について客観的に見つめなおすことができるようになる。海外の大学生と交流することで、より広い視野を持って異文化間におけるコミュニケーション力を高める。
学修の到達目標	異なった環境・背景を持つ協定大学の学生について理解し、協働して調査が進める。また、協定大学の学生に対して自分たちのことを説明する中で、日本社会や文化について客観的に見つめなおす。海外の大学生と交流することで、より広い視野を持って異文化間におけるコミュニケーション力を高めることができる。

よるフィールドスタディ実施の経験をもとに、今後はオンラインによる事前交流を積極的に取り入れていくこととした。これにより、現地での限られた時間をより有意義に活用できることが期待できる。

学修の目的及び学修の到達目標は、上述の通り海外初心者想定して記載した。そして、将来的には、交換留学等のより長期にわたる留学を目指したり、日本国内における国際交流への貢献ができる人材が育成できたりすることを目指した。そのためには、海外だけに目を向けるのではなく、これまで当たり前だと思っていた自文化のシステムや習慣等を見つめなおす必要があると考えた。そこで、2.1. でも述べたように、「日本社会や文化について客観的に見つめなおすことができるようになる」という目的を設定した。

以下は、シラバスに記載した「学修内容」および「事前・事後の学修の内容」である。本科目は全 16 回のうち、前半 7 回を座学で行う講義とし、後半 9 回を現地におけるフィールド調査等に充てることとしたが、後述の通り、実際には日本国内で 8 回目の安全講習を行うこととなった。

表 3 「学修内容」および「事前・事後の学修の内容」

学修内容	第 1 回 授業説明、必要事項の確認、 第 2 回 前年度のフィールド調査の紹介 第 3 回 協定大学、地域についての学習 第 4 回 グループ分け、グループごとの話し合い (フィールドテーマ)、 語学学習 第 5 回 グループごとの話し合い、語学学習 第 6 回 協定大学との事前打ち合わせ、フィールド調査についての準備、 語学学習 第 7 回 協定大学との事前打ち合わせ、文化紹介準備 第 8 回 協定大学との合同開講式、グループごとの打ち合わせ 第 9 回 フィールド調査、日本文化紹介 第 10 回 史跡訪問 第 11 回 史跡訪問 第 12 回 フィールド調査、言語教え合い 第 13 回 フィールド調査、言語教え合い 第 14 回 フィールド調査および、発表会の準備 第 15 回 協定大学の学生との最終発表会 第 16 回 レポート提出
事前・事後学修の内容	事前学修 180 分/回、事後学修：60 分/回でベトナムまたは韓国についての事前調査、フィールド調査の準備などを行う 事前学修の時間:180 分/回 事後学修の時間:60 分/回

3.3. 事前講義

上述の通り、全 16 回のうち、前半 8 回を日本での講義・演習形式で行うこととした。国内での授業時間帯は参加者決定後に決めることとし、2022 年度は、より多くの学生が参加できる水曜日の 7.8 コマ目（18：00～19：30）に行うことにした。体調や都合により参加できない学生を考慮し、対面とオンライン講義を併用したハイブリッド形式で行うこととした。事前講義の主な内容を以下に示す。

表 4 事前授業

1 回目	10 月 5 日	オリエンテーション、自己紹介	課題と提出期限
2 回目	10 月 26 日	パスポート準備 三重紹介グループごとの話し合い フィールド調査準備	
3 回目	11 月 16 日	ベトナム語会話① 三重紹介グループごとの話し合い フィールド調査準備	
4 回目	11 月 30 日	ホーチミン市師範大学についての学習 フィールド調査準備	
5 回目	12 月 7 日	ベトナム語会話② フィールド調査準備	課題①提出期限
6 回目	12 月 21 日	ベトナム語会話③ フィールド調査準備 コミュニケーションについて	課題②提出期限
7 回目	1 月 18 日	ホーチミン市師範大学との事前打ち合わせ	
8 回目	渡航前	海外渡航に関する安全講習、渡航準備	課題③提出期限

ベトナムへの派遣時期が、ベトナムの新年等との兼ね合いにより、毎年 2 月末～3 月中旬ごろまでとなっており、派遣終了後に評価を行うことができないため、上記 8 回までの課題及び出席状況等によって評価を行うこととした。

課題①とは、現地で行う三重紹介について、グループごとに作成した資料を提出するものである。課題②は、ベトナム語会話で学んだ表現についてのものである。具体的には、挨拶や食事の際の表現等、日本語表現をベトナム語に訳し、録音したファイルを Moodle に載せるというものである。そして課題③は、フィールド調査の事前準備についてのものである。グループおよび個人で担当箇所を資料にまとめ、Moodle に提出する。これら 3 つの課題と事前講義の出席状況等を総合的に判断し、評価を行うこととした。それぞれの課題についての詳細は、次節で詳しく述べる。

4. これまでの実施状況

ここでは、事前授業での課題①～③に沿って実施状況を述べていきたい。ベトナム語会話については、ホーチミン市師範大学からの交換留学生 2 名にお互い分担して講師を務めてもらい、現地で使用すると考えられる最低限のフレーズから、自己紹介などの挨拶、注文の仕方や数字、お金の数え方、声調と人称を教授してもらった。



図 4 三重大学に留学中のホーチミン市師範大学生による講義

何度も発声練習を行い、同留学生による音声付きのパワーポイントを参照にしながら、課題①に取り組んだ。現地で最低限のコミュニケーションを取るために学んだことを復習していること、相手の言語を知ることで、ベトナムを敬おうとする姿勢を重視している。提出された課題（録音ファイル）からは、何回も練習したうえで、丁寧に発声したことが伺え、発音もある程度ベトナムでも通じるものであった。このように学生からは積極的にベトナム語を学ぼうとする意欲がみられる。

三重紹介については、第 2 回授業からグループ（4×各グループ 3 名）を編成し、紹介する場所やテーマについての話し合いを行った。昨年度も同様に行ったが、今年度は伊勢、熊野、VISON、津市での学生生活の 4 テーマとなった。各グループとも授業内での話し合いに加え、各自が連絡を取り合い、内容、発表形式、訪問日時などを決め、編集作業を進めていった。日本の文化や社会としての三重紹介であることから、テーマについて深く調べたり、振り返ったりすることに加え、ベトナムの学生にその良さを伝えようとする努力を評価することとした。結果的に、パワーポイントによるプレゼンテーションの形式だけでなく動画や画像を工夫したり、ベトナム語を用いたり、分かりやすい日本語を用いたりしながら、課題②として提出されている（ベトナム訪問まで引き続き編集可能とした）。

フィールド調査の準備については、過去のプログラムではある程度のテーマが決まれば、残りは現地で決めていくこととしていたが、今回は授業化したことから、グループ活動での話し合いを重視し、テーマについて具体的な内容にまでまとめさせ、日本でできること

とベトナムで行うことを整理させた。表5は、レポートの執筆要領を示している。

フィールド調査のグループは各学生の関心に沿って5つに分けた。現段階でのテーマは、それぞれ「食文化」「食品」「環境」「教育」「文化・習慣」である。第2回授業からテーマについて話し合いを行ったが、各自の関心事を取りまとめ、テーマを絞る作業は決して容易ではなく、単に日越の情報を比較したり、少し調べれば分かるような内容であったり、絞り込むことに苦労していることが伺える。それでも、意欲的に話し合いが行われている。

表5 課題③のレポートの執筆要領

	章のタイトル	執筆内容
1.	フィールド調査のテーマとその概要	グループで決めたタイトルと、それについての概要説明
2.	問題の背景	2.1. そのテーマの重要性、面白さ、それについて調べることの意義、どのような役に立つのかなど 2.2. テーマに関して、ベトナムの現状について分かっていること
3.	進捗状況	3.1. グループでの話し合い、出発までに明らかにしたい点 3.2. 日本で調べられること（日本の現状についての情報を含む） 3.3. ベトナムに行かなければ調べられないこと 3.4. これまでの準備で感じていること（苦労している点などを含む）
4.	個人の関心と貢献	グループ内で個人が貢献できる部分、個人が関心を持って調べたいと思っていること
5.	参考資料	資料の編著者、年、出版社、websiteなどの情報を記載する

5. まとめと今後の展望

本稿では、まず、これまでの本学におけるVFSの振り返りと変遷、そして2022年度に教養教育科目として授業化することにより新たに変更・改良した点について述べた。そして、本授業がどのような学生を対象とし、何を目標としているのか、授業シラバスという枠の中で示し、本プログラムを授業化する意義を確認した。これまでも、授業として成立しうる内容のプログラムを実施してきたが、今回の授業化によって学生の取り組みを評価することができるようになった。また、授業化することにより日本学生支援機構(JASSO)の奨学金を申請し獲得したことから、経済状況にかかわらずより多くの意欲ある学生が参加できる環境を作ることができた。

現段階(1月末)において、授業および派遣が完了しておらず、成績評価も完了していないことから、すべての成果をまとめる段階には至っていないものの、これまでの知見が活かされた授業として順調に進行している。

今後は、過去の参加学生が VFS 参加後に国際交流にどのようにかかわっているのか、交換留学等へのより長期の留学等に影響を参加しているのか追跡調査の実施等を通して、その後の国際交流活動とのかかわり等についても追跡していきたいと考えている。

参考文献および参考資料

- 長縄真吾・江原宏 (2015) 「ベトナムでの海外体験学習を通じた参加学生の意識変化：グローバル人材育成の観点からの一考察」『三重大学国際交流センター紀要 10』 pp.137-152.
- 松岡知津子・奥田久春 (2020) 「2018 年度三重大学ベトナムフィールドスタディの意義と課題」『三重大学国際交流センター紀要 15』 pp.81-94.
- 松岡知津子・奥田久春・Cao Le Dung Chi・Le Thi Hong Nga 「三重大学ベトナムフィールドスタディ 2020 の実施と今後の課題」(2022)『三重大学国際交流センター紀要 17』 pp.55-67.
- 村田晶子・佐藤慎司 (2022) 「オンラインの国際協働学習の意義」村田晶子編著『オンライン国際交流と協働学習』くろしお出版 pp.3-25.
- 吉井美知子 (2011) 「参加型開発教育の実践と考察：三重大学ベトナムフィールドスタディツアーの事例より」『三重大学国際交流センター紀要 6』 pp.65-79.
- 「2022 年度ベトナム・フィールドスタディ参加者募集&説明会のお知らせ」三重大学国際交流センター HP <https://www.mie-u.ac.jp/international/news/cate-event/2022-5.html> (2022 年 8 月 2 日)